

公開講演会 最新化学談話シリーズ

平成 30 年度第 2 回談話会

プロスタグランジン受容体を介した生理と病態の調節機構

— ヤナギから ω 3 脂肪酸まで —

杉本 幸彦 教授

(熊本大学大学院 生命科学研究部)

主催 九州大学理学部化学教室談話会

日時：平成 30 年 6 月 8 日 (金) 午後 3 時 30 分より

場所：九州大学理学部 大会議室 (W 1 -C-408)

(伊都キャンパス ウエスト 1 号館 C 棟 4 階 408 号室)

内容:人類が痛みを抑えるためにヤナギの樹皮を利用したのは紀元前に遡る。ヤナギに含まれる成分を最適化したアスピリンが上市されたのは 1899 年である。アスピリンが生理活性脂質プロスタグランジン(PG)の産生を抑えることで鎮痛効果を発揮することがわかったのは 1969 年のことであった。それ以来、PG は、発熱や疼痛、炎症などの悪玉作用だけでなく、胃粘膜保護や生殖生理などに必須の役割を果たすことが示されてきた。本講義では、PG 受容体の生理機能を俯瞰するとともに、 ω 3 脂肪酸に代表される脂質の質が PG 受容体の機能発現に果たす役割について論じたい。

(注)この講演は大学院集中講義の一部です。

連絡先：九州大学大学院理学研究院化学部門

(世話人) 松島綾美 : TEL (092)802-4159

(事務局) 化学部門等事務室 : TEL (092)802-4125